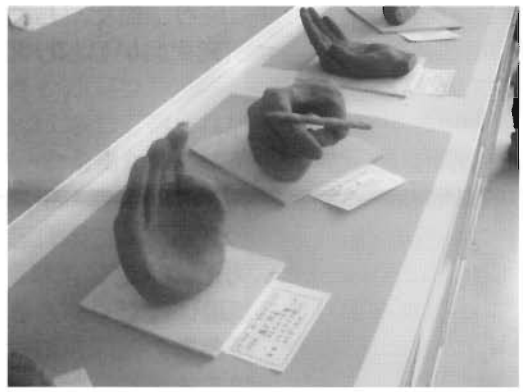
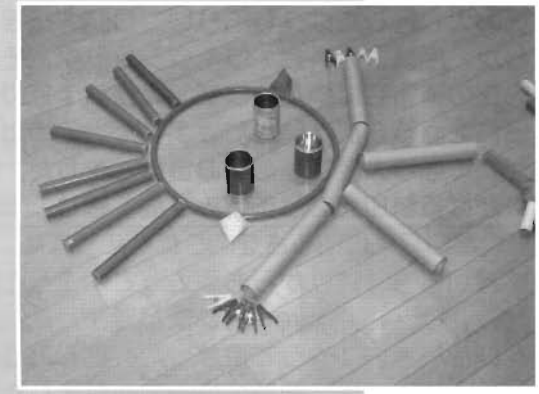




第58回全道造形教育研究大会INいしかり北広島特集

<目　次>

・大会風景〈表紙〉…… 1
・大会実行委員長挨拶…… 2
・大会を振り返って…… 3
・いしかり北広島大会によせて…… 4～6
・21年度大会のお知らせ…… 7
・地区サークル情報…… 8

北海道造形教育連盟報

No.127　2008.12.1発行

発　行　北海道造形教育連盟

委員長　菅原清貴（札幌市立幌西小学校）

事務局　札幌市立盤渓小学校　稲賓　順
〒064-0945
札幌市中央区盤渓２２６
TEL(011)642-3223・FAX(011)642-3287

旭川へ！函館へ！そして札幌・全国大会へ

第58回全道造形教育研究大会
いしかり北広島大会
実行委員長　墓　田　充　泰
（千歳市立富丘中学校）

朝夕の寒さが日一日と厳しさを増し、北海道の冬を感じさせる季節となりました。
ようやく落ち着いた日々に戻り、慌ただしく過ぎ去った第58回全道造形教育研究大会いしかり北広島大会を思い起こしています。

◇大会開催にあたって

これまで石狩で開催された江別大会・千歳大会、そして今回の北広島大会と、その中に流れる研究の基本的考えは変わっていないと考えています。ただ、図工美術教育を取り巻く環境は厳しく、造形教育活動を通しての「心豊かな子どもの育成」に対する危機感が本大会の基本的構想を支えていたと言えましょう。

時数の削減に伴う制作・創作時間の減少、職員定数による専門教員の減少が、貴重な指導経験を後輩に伝える機会をも減少させているのが現状です。本大会は、これまでの各地区での研究実践・成果を受け、また、「指導者である我々自身が基礎・基本をしっかり身に付けてこそ」の考えから研究を組み立て、そのことから、「免許外で指導されている先生にも興味・関心を持ち理解してもらえる授業の研究」を目指してきました。したがって、教材も、基本的で教科書に掲載してある程度のものにこだわり、どのように授業を構築するかに視点をおき研究してきました。その主旨から、授業者には免許外の先生にも依頼したわけです。また、失敗例も貴重な参考例として紹介するよう話しあいましたが、如何だったでしょうか。
「こうやったら失敗しちゃった」というのも原因究明には貴重な経験だと考えました。

◇子どもの満足する表情を求めて

地区の大会としては久しぶりに二日間の日程を組みました。授業・分科会・ワークショップ、そして大橋先生の講演会にいたるまで、大会前までの予想を大幅に上回る参加をいただきました。そのため、会場が狭くなり大変ご迷惑をお掛けしました。造形教育にかける参加者の意気込みを強く感じ、北海道の造形教育の将来に明るさを感じたところです。

参加者からも「これからも頑張っていこうと思いました」「"元気""Power"をいただきました。」等の声をいただき、「やって良かった」としみじみ感じているところです。課題の指摘もありました。今回の成果や課題が、次回の旭川大会に行かされるよう連携し、成功を期したいと考えています。

◇お　礼

授業を公開いただいた管内の園児・児童生徒、教職員はもとより、大会の企画・会場づくり・運営とご尽力いただいた先生方に感謝申し上げます。また、管外からも提言や助言、ワークショップにご協力いただいた先生や先輩諸氏、会場の使用や運営にご支援いただいた大曲東小学校と大地太陽幼稚園の職員に皆様にもこの場をお借りしてお礼申し上げます。今大会のために講演をしていただいた東京未来大学の大橋功先生にも厚く御礼申し上げます。さらに側面からのご支援いただいた北広島市教育委員会、管内教育委員会、管内小中学校長会など、ご支援いただいた全ての方々にお礼申し上げます。

第58回いしかり北広島大会での成果と課題

石狩造形教育連盟
研究部　山　崎　正　明

いしかり北広島大会に多数参加していただき、石狩のメンバー一同本当に大きな喜びを感じています。道内だけではなく、本州からの参加もありました。また、はじめて図工の研究に参加された先生、免許外で指導されている中学校の先生の参加もありました。「美術教育支援」ということも重視していただけに、うれしい出来事でした。

提言や分科会の協議では、当たり前のことかもしれませんが、研究の主題に沿った話し合いがなされたことも、参加者と共につくる研究会という点で、確かな手応えを感じさせてくれました。例えば、研究協議で話し合われている内容が従来の「物語の絵」の指導のあり方にではなく、「何を育みたいのか」で協議しましょう、といった話になりました。研究会の前に、webサイトではもちろんですが、研究説明を日程の最初にさせていただいたこともよかったと思っています。

ただ、授業では子どもの表情がやや硬いのではないか、という感想も一部いただきました。本時での「育みたい力」は、確かに指導案の通りなのですが、もっと強弱があってよかったかもしれないという反省もあります。またどのクラスも一度もプレ研をしていないということもあるでしょう。これは今後の課題とさせていただきたいと思います。

さて、参加者のみなさまからいただいた子どもへのメッセージ、これは、何より子どもへの励みや自信にもつながりました。学年だよりや学級だよりにも活用され、保護者へ美術教育の大切さを伝える役割も果たすことができたと思います。

提言については、「もう一つの公開授業」ということで、力を入れさせていただきました。Webサイトでは、むしろ提言が中心であったと言っても過言ではないでしょう。事前の打ち合わせ会議やメーリングリストも有効でした。提言者とも共同研究を目指してきましたが、その過程での他地域との連携は刺激になり、研究を活性化させてくれました。

大会二日目の大橋功さんの講演会やワークショップへの参加は予想を超える参加となり、一部ご迷惑もおかけしましたが、皆様のニーズに応えられたのではないかと手応えを感じております。またDVD「かく・つくる・みる」も170部もご購入いただきました。図工美術の基礎を学べる研究会の一貫で製作したものですから、これもうれしいことでした。

最後にこの研究会を通して私たちが変わったこと、それは、授業の中で「育みたい力」をより意識するようになったことです。そして、授業を見る目が変わりました。活発だとか集中しているというよりも「子どもの心や頭の中で何が起きているか」という視点で授業を見るようになったことです。ですから授業を語る時、笑顔が多くなりました。それは、その授業を話す先生が子どもの姿を思い浮かべているからです。この研究会での成果や課題をもとに美術教育を北海道全体でつなげながら、互いに高め合っていければ幸いです。旭川、函館そして全国大会へ！！

第58回北海道造形教育連盟全道大会の様子

2008. 7. 28～29　　いしかり北広島大会

受付の様子～朝から熱気に包まれた開会式

大会実行委員長　墓田先生の挨拶

授業公開　十七題材
提言分科会　十五題材

授業後の話し合いの様子

大会主題である
豊かな心と確かな力
を育む造形教育のあり方を多くの場面を通じて学んだ大会でした。

東京未来大学　大橋　功　氏による
講演『授業作りで大切なこと』の様子

Fromいしかり北広島大会

参加者からの声

『あつめよう、ならべよう　何に見えるかな？』の授業を見て（特別支援）

札幌市立東橋小学校　　渡邊　美雪

授業を見させていただき、子どもたちが楽しそうに作品に取り組む姿や先生たちの優しい言葉がけや表情、学級の落ち着いた雰囲気が素晴らしいと思いました。いろいろな素材の中から子どもたちが自由に選んでダイナミックに形を作る楽しい題材でした。子どもたちの意欲は時間いっぱい持続しており、課題もその子なりに把握できていたようで、普段からの学習の積み重ねの成果が出ていたのでしょう。図工の学習では絵を描くことに消極的であったり物を作ることに楽しさを感じられなかったりする子どもの姿を見ることも少なくはありませんが、そのような子どもにも何とか楽しんでもらいたいといつも考えています。授業者が「楽しんで主体的に動き、子ども自らがやってみようと課題に向かっていく授業作り」と話をされていましたが今回の授業を参考に、私も日々の授業の中で実践していきたいと思います。

『ぼくら　ちいさなアーティスト』の授業を見て（小学2年）

鹿追町立鹿追小学校　　石川　直人

公開授業では優しく温かみのある語り声に誘われ、鈴木礼二先生の授業に参加させていただきました。子どもたち一人ひとりの思いが詰まったデッサンやどんどん追求して作業を進めようとする姿勢など、どれも素晴らしかったです。普段から子どもたちが伸び伸びと自由に発想し楽しみながら図工の授業をしている様子が目に浮かんできました。今回の授業を見て①日常からの肯定的な評価の大切さ②鑑賞からさらなる追及心が生まれる③認め合える学級の雰囲気作りの大切さなど、様々なことがわかりました。道内の図工美術に関わる先生たちが一同に会するこの大会からたくさんのことを学ばせていただき、参加して本当によかったと思いました。大会に参加後、自分の図工に対する考え方が変わったような気がします。今回学んだことを一つでも、目の前にいる子どもたちに還元できるよう、子どもに寄り添った図工の授業を展開していきたいと思います。本当にありがとうございました。

『マイ　ハート』の授業を見て（中学2年）

石狩市立樽川中学校　　樋渡　真紀

授業公開が始まる前から教室にいました。授業者の山内先生と生徒のみなさんがとても楽しそうに話しているのが印象に残っています。そして、実際に授業が始まると、緊張した顔とやる気に包まれた雰囲気が、この授業の成功を物語っていました。光を意識して自分の気持ちに合わせて表現方法を選択し、自分の思いを作品にしていく過程は見所も多く、思わず自分が生徒だったらどんな気持ちで制作するだろうと考えてしまいました。心象風景を描くことはとても難しいことですが、この授業では教師が意図している《育みたい力》がはっきりしていて大変良かったと思いました。この研究大会に参加して、あらためて題材との出会わせ方が大切であり、どんな力を育てたいのかということを明確にしていくことで、生徒に興味や関心を持たせることができると感じました。この大会に参加して自分も成長できて本当によかったです。

『あすかの森はワンダーランド』～生き生きと描く子どもたちの姿を見て（小学4年）

羽幌町立羽幌小学校　　久保なつき

笑顔いっぱいに、絵の具を手や髪の毛にまでつけながら、先生と描くことを楽しむ子どもたち。見ている大人まで参加したい！と思うような授業でした。グループで自分たちが想像する「あすかの森」を大きなキャンバスに描く活動でしたが、60色もある絵の具から自分たちの作品に合った色を選んだり、作ったりすることが、子どもたちの何気ない会話から自然に進められていました。グループ内でのみんなの思いがきちんと1つにまとまっていることを感じました。そして、他のグループの人たちになりきって、作品の見所を発表し合うという鑑賞の時間。仲間のいい所を自然に認め合い、そのことを「言ってくれて嬉しい」と、感想を返すなど、作品を通して子どもたちどうしのつながりも深まっていくのを感じました。余計な言葉は不要な、子どもたちの、描きたくて作りたくてしょうがないという表情にすべてが表れている、そんな素敵な授業でした。

『思いのこもった手をつくろう』～「作り方指導」と「表現」のかねあい（中学1年）

旭川市立北星中学校　　庄子　展弘

「子ども達の頭や心の中で何が起こっているのか？」。これが大会の一番のポイントではないだろうか。参観した授業は中学1年生の塑像。芯材を用いずに手を作るという題材。今までの「作り方指導」の反省から思いをこめた「表現」へと変えた2年目の実践である。同じ題材でも取り組み方一つで子どもの学びが変わり、頭や心の中の変容の質が変わる。プロジェクターや実物投影機で、手を題材とした彫刻や絵画を提示し、制作のポイントの参考例を教師が実演して見せることで、生徒達は目を輝かせて自分の作品に取り組む意欲を高め、制作場面では黙々と粘土と格闘していた。「作り方指導に陥りがちだったのが、変わった。造形的には良くない部分がありますが、気持ちの部分が変わった。もう前には戻りたくないと思います。」と授業者の西村先生が語っていた言葉に深く共感した。「作り方指導」と「表現」のかねあいを子どもの変容を通じて考えることが必要だと痛感した。

『思い、ふくらむ場面～銀河鉄道の夜の世界』の授業を見て（小学5年）

札幌市立西園小学校　　中野里美人

初めて知る物語にもかかわらず、がんばって絵にしようとしていた子どもたちの集中力がとても素晴らしかったです。本時の目標としては①物語から場面の様子を想像する②構図や色の使い方の工夫でした。②でいえば、遠近法などの画面構成手法を全体指導で共通化させることにより、この技を生かそうとする子が多く見られましたのでよかったのではないでしょうか。①に関しては、いろいろな場面を想像し描くためには、やはり言葉にこだわり自分なりに主人公を生み出す時間が必要と考えます。お話を聞きながら描くのではなく、ピンときた言葉をメモしながら、言語にこだわらせてもよかったと思います。なかなかイメージのふくらまない子には補助資料を提供するなど、支援の工夫もよかったと思います。今回の授業で、物語でイメージをふくらませる過程において言葉の意味にこだわる子と意味は分からなくとも文章の雰囲気で表現する子がいるということを知りました。どちらの子も五感をはたらかせて表現することを楽しめる授業作りを目指していきたいと思いました。貴重な授業を見せていただきありがとうございました。

『伝え合おう！仲間との思い出』の授業を見て

羽幌町立羽幌小学校　　松岡　宏悦

授業前、明るい窓に向かった子供たちの背中が見えました。子供たちは、少し緊張しているように見えました。開放的な雰囲気の中で、子供たちの前には、可愛らしいイーゼルが置かれていて、そこには、子供たちの修学旅行の思い出がぎゅっと詰め込まれた丁寧な絵が飾られていました。北広島造形教育研究大会と名付けられた大会で、敢えて相互鑑賞の場を先生方に見てもらおうという熊谷先生の意気込みが感じられた授業でした。

授業が始まる前には、イーゼルが少し遠いかなと思いましたが、授業が始まり、子供たち一人一人の言葉を聞いているうちに、見ているわたしたちに絵がぐっと近づいてくるように感じられました。子供たちは友達の作品から、そんなことを感じ取っていたのか、そんな表現のよさまで見取っていたのかと感嘆させられました。熊谷先生の『伝え合おう！仲間との思い出』では授業や作品、対話の中から、絵手紙に向かう子供たちの姿がにじみ出てくるような授業でした。

2日目のワークショップでは9時の開会時間を待たずに先生方が教室へ入って、まだかまだかと研修を心待ちにしている様子が素敵でした。あんな先生方からはきっと楽しくて素敵な造形教育が生まれてくるに違いないと感じました。ワークショップがなくても、普段学校の中で、若い先生方にちょっとした技法やヒント、造形のポイントが伝えられる時間があればいいのになあと思いました。みなさん忙しくてなかなか時間がとれない中、図工や美術の準備に割ける時間は限られていますから・・・

でも、先生が楽しいことは子どもたちも楽しい！！造形教育の研究をしているわたしたちは、これだけ覚えておけば絶対に間違いないなあと感じました。

第59回 全道造形教育研究大会 上川・旭川大会

大会テーマ

～「身体で感じ・心はずませ・創造する」喜びを～

研究主題 ～「いま ・ ここで」「つなげる」造形教育を求めて～

■会　　期 ～ 平成21年 7月 28日(火)
■会　　場 ～ 旭川市立永山中学校　旭川市永山7条19丁目1-1
■大会参加費 ～ 4，500円

子どもの感性をより輝かせるためには、「そこにあるものを感じる」ことにとどまらず、**能動的な行為の中で得られる現実（アクチュアリティ）**を子どもたちに与えることが大切と考えました。

これをもとに、子どもたちは、五感等を通した**身体で感じる**出合いによって得られたアクチュアリティから「なんだか楽しい」、「これっておもしろい」、「こうしてみたい」・・・**心を動かし、はずませて**いきます。そして、新しい意味（価値）の発見である**創造する**ことによって、「楽しい」、「おもしろい」、「できた」、「うれしい」、「もっとやってみたい」・・・となり、さらに興味関心を高っていき創造活動を愛好していきます。これを連綿とつなげることにより、子どもたちにとっての学びの時間、学びの場は**「喜び」**を見いだす瞬間になります。

また、**【「出合い」と「思い」と「喜び」】**を、**【「わたし」と「あなた」と「みんな」】**を、**【「きのう」と「いま」と「これから」】**を、連綿と**【「つなげる」】**ことが、造形教育における**「生きる力」**を育むことにつながると考えています。

幼稚園 2
小学校 4
中学校 4
特別支援 1

オープニング
セレモニーなど

幼稚園 1
小学校 2
中学校 2
高校 1
特別支援 1

参加者との交流の
ひととき・・・
旭川美術館での開
催を計画中。

8:30 9:00		10:15	11:00	12:00	13:30 13:45	16:15	17:15
受付	公開授業① 9:00～9:50 公開授業② 9:15～10:05	開会式 全体会	つながる 広がる 連携講座	題材屋台 昼食	分科会	移動	特別展鑑賞 と レセプション 閉会式

☆北海道立旭川美術館とのつながりから
「ギャラリートーク講座」
☆旭川市彫刻美術館とのつながりから
「彫刻鑑賞講座」
☆北海道教育大学旭川校とのつながりから
「図工美術の今日的課題について」

※一つの講座選んでいただきたいと思います。

★参加者が体験できるミニ実技

バードコール

ウッドシート

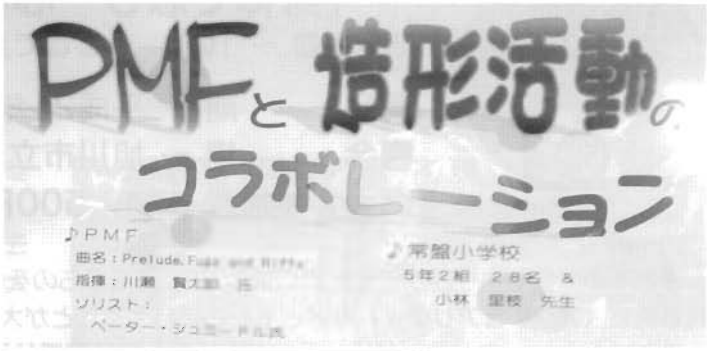
ゴロプレート　他

10種類以上計画中。

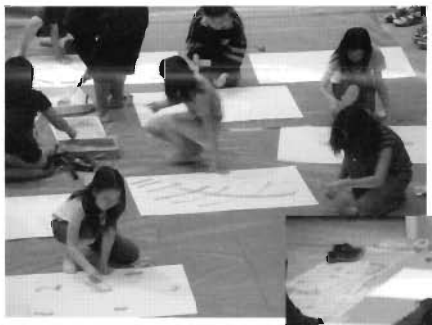
＜連絡先＞　〒070-0993　旭川市春光6区3条2丁目　旭川市立啓北中学校
実行委員会庶務部長　　森　　洋　宛
TEL 0166-52-4499　FAX 0166-52-4484

～ 地区サークル情報　札幌市造形教育連盟の取り組み ～

PMFと造形活動のコラボレーション



演奏曲の感じをつかんで…



曲を聴いて『流れ』をイメージしたよ！

私は明るい感じ！

音楽と美術の融合により新たな作品が創造されました。緊張しながらも子どもらしくのびのびと活動に取り組んだ１時間となりました。

シュミードル氏が一人の男子の作品を気に入り、是非ウィーンの自宅に飾りたいという申し出がありました。選ばれた男子も嬉しそうに要請をうけいれてくれました。光栄なことです。

あとがき

今号では、いしかり北広島大会の様子を中心に紙面を構成し、次年度旭川大会（第59回）のPRページも設けました。（大会のロゴマークが個人的には気に入ってます！！）地区サークルの実践紹介では、札幌市造形教育連盟の取り組みを紹介しましたが、「うちのサークルの活動もぜひ紹介して！！」というご要望がありましたら、広報部まで遠慮なくお知らせ下さい。

〈北海道造形教育連盟　広報部　　松本　和彦・伊藤　聡美・大高　雅子〉